

NEWS RELEASE

2017年4月20日

各位

食物アレルギーと向き合う人々に「食べる喜び」をご提供する活動を推進

ニッポンハム食の未来財団 公益認定を取得

食物アレルギー対策に特化した法人として国内初(※)

一般財団法人ニッポンハム食の未来財団(事務所:茨城県つくば市、理事長:山田良司)は、活動3年目を迎えた今春、内閣総理大臣より公益認定を受け、平成29年4月1日より『公益財団法人ニッポンハム食の未来財団』として新たなスタートを切りました。食物アレルギー対策に特化した法人として国内初(※)の公益認定です。

(※)内閣府ポータルサイト「公益法人information」の公益法人等の検索による調査

当財団は食物アレルギー領域の研究開発支援や社会啓発活動を通して、全ての方に「食べる喜び」を感じて欲しいという思いから平成27年1月に日本ハム株式会社により設立されました。「食物アレルギー」対策に焦点を絞り、設立から約2年間、社会が抱える課題の改善に繋げるための活動を行って参りました。これらの活動は、日本ハム株式会社が約20年に渡って培った食物アレルギー領域の経営資源(食品開発、検査技術開発及びそれらの事業)や経験を大きな原動力としています。この度、当財団の研究助成事業や社会啓発活動が“科学技術の振興及び公衆衛生の向上等”を目的とする公益に資する事業であることが内閣府に認められ、公益財団法人として新たにスタートする運びとなりました。

食物アレルギーを取り巻く社会の動きは、平成27年12月25日、他のアレルギー疾患も含めた“アレルギー疾患対策基本法”が施行され、平成29年3月21日にはその推進のための基本的な指針が告示されるなど、今や社会全体としての対応が必要とされる時代となっています。その中で、当財団は食物アレルギー領域でサイエンスに基づく活動を行う特徴的な財団として、社会のニーズや要請に積極的に応える取り組みを行い、食物アレルギーと向き合う人々に「食べる喜び」を提供するための公益活動を推進して参ります。

なお、公益認定とは、一般社団法人又は一般財団法人が公益認定基準に適合すると行政庁が認めたときに行われる認定で、主に公益性とガバナンスが審査されます。認定された法人のみが公益法人としての活動を許され、「一般財団法人」の場合は「公益財団法人」の名称を使うことができるようになります。

次ページ以降で主要事業について紹介いたします

▼リリースに関する問い合わせ先

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団 沖浦・川澄まで

主要事業1. 食物アレルギー領域への研究助成

この度、平成29年度研究助成先を決定しましたので、お知らせいたします。いずれの研究も食物アレルギーに関する環境改善への寄与が期待できるものです。

■目的

食物アレルギーに関連する知見獲得、問題解決を目指す研究者及び研究グループに対して研究助成金を交付し、研究開発の推進を通して、食物アレルギーに関わる環境改善に寄与することを目的とします。

■助成期間

平成29年4月1日から平成30年3月31日に行われる研究

■助成金額等

平成28年7月15日から9月30日の期間に公募を行ない、研究助成審査委員会による厳正かつ公正な審査を経て、65件の応募の中から19件、5,687万円の助成を決定しました。

決定しました。

<内訳>

- 共同研究 助成件数：5件（応募件数35件）、助成金合計2,888万円
- 個人研究 助成件数：14件（応募件数30件）、助成金合計2,799万円

平成29年度 研究助成先一覧 (敬称略・50音順)

【URL】 https://www.miraizaidan.or.jp/specialist/grants/2016/02_result.html

■(A) 共同研究助成先 (5件、助成金合計2,888万円)

	代表者	所属機関・役職	課題名
1	伊藤 浩明	あいち小児保健医療総合センター 副センター長・総合診療科部長	α s1 カゼインのアレルゲン活性に対する免疫学的機序による制御に関する研究
2	海老澤 元宏	国立病院機構相模原病院臨床研究センター アレルギー性疾患研究部 部長	新生児早期の食事介入による即時型食物アレルギー発症予防効果の検証
3	香月 康宏	国立大学法人鳥取大学 染色体工学研究センター 准教授	食物由来制御性ペプチドの探索に基づく食物アレルギー予防食品の開発
4	藤澤 隆夫	国立病院機構三重病院 院長	重症鶏卵アレルギーに対する経皮免疫療法の有効性と安全性に関する研究
5	松本 健治	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 部長	ヒスタミン遊離因子の阻害による食物アレルギー治療薬の開発

■(B) 個人研究助成先 (14件、助成金合計2,799万円)

	氏名	所属機関・役職	課題名
1	伊藤 亮治	公益財団法人実験動物中央研究所 博士研究員	ヒト化マウスを用いた食物アレルギーモデルマウスの開発とアナフィラキシー制御の研究
2	五十嵐 ありさ	国立成育医療研究センター研究所 研究員	食物アレルギー罹患児の血漿中におけるアレルギー関連miRNAの発現プロファイル解析
3	上番増 喬	徳島大学大学院医歯薬学研究部 助教	母親の腸内環境が胎児の出生後の食物アレルギー発症に及ぼす影響の解析
4	大嶋 直樹	島根大学 医学部 助教	microRNAの網羅的解析を用いた好酸球形消化管疾患のバイオマーカーの探索
5	岡田 貴裕	佐賀大学 医学部 助教	糖鎖生物学的アプローチによる果実のアレルゲン性発現メカニズムの解明
6	片山 茂	信州大学 農学部 准教授	免疫寛容誘導作用を有する低アレルゲン性蕎麦抗原ペプチドの創製と予防治療への応用
7	川本 典生	岐阜大学医学部附属病院 小児科 併任講師	抗原変異カゼインを用いた乳幼児ミルクアレルギー患者への早期介入による、ミルクアレルギーへの治療効果
8	國澤 純	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 プロジェクトリーダー	食物アレルギーの新規予防法の開発に向けた母子栄養・腸内因子とアレルギー疾患との相関解析
9	田中 景子	愛媛大学大学院医学系研究科疫学 助教	妊婦の栄養摂取状況と子の食物アレルギー発症との関連：出生前コホート研究データを活用した解析
10	長尾 みづほ	国立病院機構三重病院 臨床研究部 室長	食物アレルギー児のQOLに着目した予後に関する研究
11	平川 城太郎	千葉大学大学院薬学研究院 助教	革新的抗体作製技術を用いた食物アレルギー抗原同定法の開発
12	藤村 孝志	広島大学大学院先端物質科学研究科 特任助教	うるち米デンプンとアレルゲンの共摂食による経口免疫寛容誘導の検討
13	山本 武	富山大学和漢医薬学総合研究所 消化管生理学 助教	葛根湯の併用による経口免疫寛容の治療効率の向上及びその機序の解明
14	吉田 幸一	東京都立小児総合医療センター アレルギー科 医員	マカダミアナッツアレルゲンの交差反応についての解析

主要事業2. 食物アレルギー対応食 料理コンテスト

- 目的 家庭技術の伝承、学習機会の創出
- 内容 レシピを募集し、書類及び実食審査
- 審査 有識者からなる審査委員会の審査
- 実績 過去2回実施し、合計1,555件の応募があり、入賞作品40件を選出。
- 予定 平成29年度に第3回目を実施
- 普及 当財団のHPにて入賞作品のレシピと料理動画を無償で公開。
※現時点では第1回目の入賞作品20件を公開済



左写真. 一般の部 最優秀賞
(小麦を使わないつるるんうどん)



右写真. 学生の部 最優秀賞
(ヴィーガン マカロン)



上写真. 平成28年度表彰式集合写真

主要事業3. 栄養士向けセミナー

- 目的 食従事者(栄養士)の教育、情報格差の是正
- 内容 専門医、管理栄養士による講演
- 実績 過去10会場で実施し、1,665名を動員
- 予定 平成29年度も全国5会場で開催
- 開催地 岐阜、大阪、高知、福岡、鹿児島 (平成27年度)
札幌、金沢、東京、広島、大分 (平成28年度)

右写真.
栄養士向けセミナーの様子(東京会場)



主要事業4. 団体活動支援助成

- 目的 団体によって行われる活動を支援することで、食物アレルギーに関係する環境改善を進める。
- 内容 活動を募集、審査して助成
- 審査 当財団の理事会による審査
- 実績 4件、助成金合計202万円 (平成28年度)
- 予定 平成29年度は二期に分けて実施

右表. 平成28年度団体活動支援助成先一覧
敬称略・5音順

	氏名	所属団体・役職	活動名
1	安部 泰佑	株式会社Smiley.Club	食物アレルギー講演会 対象:アレルギー児をお持ちの保護者、 園/小学校関係者
2	坂本 龍雄	認定特定非営利活動法人 アレルギー支援ネットワーク 理事長	エッセイ集 「食べるということ」の制作、普及、出版
3	武内 澄子	食物アレルギーの子を持つ親の会 代表	第9回食物アレルギー教室 第一部:講演とエビデンス講習会 第二部:料理講習会
4	服部 佳苗	特定非営利活動法人 ALサインプロジェクト 理事長	言葉の壁を超えて、食物アレルギーを社会みんな で支えるための啓発活動 ・トラブルブックの普及啓発と国内和訳版の制作 ・仕事で食物アレルギー対応の知識を必要とする 方々を対象にした勉強会 ・海外留学・研修に備えて仲間理解し支えあ う為に高校生対象の勉強会

公益財団法人ニッポンハム食の未来財団 概要

■組織

1. 所在地 : 茨城県つくば市千現2-1-6 つくば研究支援センター A-24
2. 行政庁 : 内閣府
3. 理事長 : 山田良司 (元 日本ハム(株)中央研究所 所長)
4. 沿革 : 2015年1月27日 一般財団法人ニッポンハム食の未来財団 設立
2017年4月 1日 公益認定を受け、公益財団法人ニッポンハム食の未来財団となる

■財団理念

「現代及び将来において、食物アレルギー等の人類社会が抱える食生活における課題解決のために、
①関連する科学技術の振興や研究促進のための助成
②食生活の安全・安心且つ質の向上に向けた啓発
を核として、世界の人々に“食べる喜びと感動”を提供することにより社会に貢献する。」

■事業内容

1. 食物アレルギーの環境改善に繋がる活動及び研究助成事業
 - (1)食物アレルギーと向き合う人々のQOLの向上及び社会の理解を高めるための啓発活動
食物アレルギー対応食 料理コンテスト事業、講演会、情報提供など
 - (2)食物アレルギー分野の研究促進のための助成事業
- 食品開発、診断や治療等に係る基礎・応用研究への助成
2. 有益な食生活の提案や研究助成事業
 - (1)健康で健やかな生活を支援するための食の提案、情報提供活動
 - (2)そのための食品研究への助成